

2013年9月 ベンチャー起業論「対決」学部長挨拶

まず始めに、今年前期のベンチャー起業論とその関連科目にご協力くださいました企業の皆様、講師陣の皆様に御礼もうしあげます。皆様のおかげで、今年もこの「対決」のイベントを迎えることができました。ありがとうございました。

昨年、私は、この挨拶の中で、ベンチャー起業論は、そろそろ次の段階に入る時期ではないかと申しあげました。現在のベンチャー起業論では、学生を元気にさせることができます。次はそこに専門知識をもたせることが必要であろうということです。あれから1年たちまして、学部として、次の段階づくりを行ったことをここにご報告いたします。

来年度、産業経済学科は、大規模なカリキュラム改正を行い、これまでのコース制を廃止し、2つのプログラムを軸とする教育体制に移行します。そのプログラムの1つがこのベンチャー起業論とその関連科目を母体とする「起業家育成プログラム」というもので、41科目からなる科目群です。このプログラムに沿った学習をしようとする学生は、1年次から「ベンチャー起業論」を履修して、様々なプロジェクト活動を行います。その中で、彼等は壁にぶつかり勉強の必要性を感じるでしょう。そのもとで2年次以降の専門科目を強い動機をもって学んで、そして、その知識を2年次、3年次のプロジェクト活動に活かしていってもらおう。そのような設計になっております。

新カリキュラムによって、元気な学生、人生に夢を持つ学生が、されに磨き上げた強力な武器をもって社会に出て行ってほしいと考えています。これからも企業の皆様、外部講師陣の皆様にお力添えをお願いしたいと思います。

さて、今年の「対決」です。本日は、この後8チームが発表します。実をいいますと2週間ほど前、阿比留さんは、ひどく悩んでおりました。めずらしく憔悴しておりました。「今年はレベルが届かないものが多い。今年は「対決」が開催できないかもしれない」というのです。しかも「もっと悪いのは、自分がそう言っても、学生がピンチだと思ってくれないことだ」といっていました。

この後、阿比留さんから詳しいお話があると思いますが、はっきり言いまして、今年は、ご来場の皆様に「学生がこのような面白いものを考えました。どうぞ見てください」とはいえない状況です。見ていて張り合いがないかもしれません。しかし、視点を変えますと、今現在の素顔の学生がそこにいることができます。現状は実際、このレベルであり、それを引き上げるのが、我々大学に課せられた教育という仕事であるといえます。福岡大学は、現在の日本の中堅の大学ですから、本学の学生は日本の中堅どころの大学生の代表といえます。福岡大学の直面する問題は、現代の我が国の問題ともいえます。今後どうしたらよいか、どのような仕組みづくりが必要か、我々は真剣に考えなくてはならないと感じています。

ともかく、今年もこのイベントが実現できたことをよろこびとし、ベンチャー起業論を支えてくださっているすべての皆様に感謝して、私からの挨拶といたします。